スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

【北海道鷹栖町】
令和５年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	北海道鷹栖町
担当課名	教育課体育振興係
電話番号	0166-87-2028

１．自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

人口	６，５８５人	部活動数	９部活
公立中学校数	１校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	１６９人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

鷹栖町立鷹栖中学校の部活動加入率は80%と高く、加入していない生徒は近隣市町村のクラブチームに参加するなど中学生のスポーツ参加率は高い。顧問は、競技経験のある種目を担当しており、競技経験のない顧問がいる部活動には部活動指導員を配置している（３部活動４名）。

課題としては、団体競技における部員数の減少である。令和４年度にサッカー部が廃部となり、５年度においても３年生引退後の現在は、女子バレーボール部は５名、女子バスケットボール部は１年生０名といった状況であり、将来的に廃部の可能性が高い部活動が存在する。

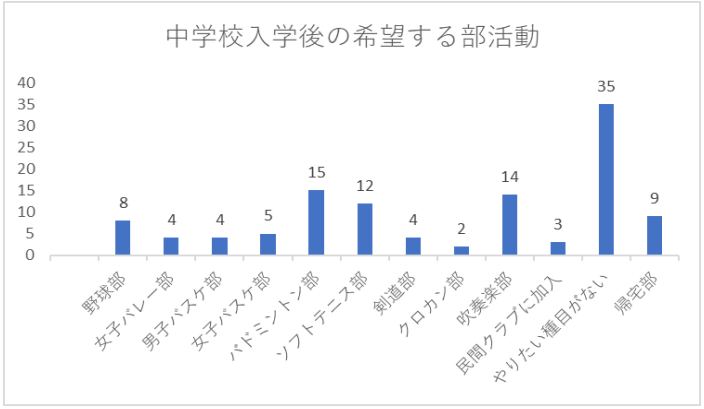
令和５年度に実施した中学校１～３年生までを対象としたアンケート調査では、部活動に対する満足度は高く、50%が部活動に対して「特に不満はない」と回答した。参加してみたい地域スポーツとしては、競技志向よりもエンジョイ志向の活動を望む意見が８割を占めた。部活動にない種目や文化芸術活動の経験を望む意見もあった（現状、文化部は吹奏楽部のみ）。

町のスポーツ環境の課題として、スポーツ少年団加入率が20%と年々減少していることである。小学生の保護者を対象としたアンケート調査では、スポーツ活動をしていない家庭の40%が「子どもがやりたがらない」という理由であることがわかった。また、中学校入学後の希望する部活動では「やりたい種目がない」という回答が最も多かった（30%）。

令和５年度に設立した「たかす総合型地域スポーツクラブ」では、毎週多種目スポーツ教室を開催しており、30名を超える小学生が参加をしている。保護者アンケートでは、この活動を中学生も参加できるようにしてほしいといった意見や、運動が苦手な子どもが気軽に入れて、体を動かすことができる活動を望む声があり、令和５年度において地域クラブ活動での実証を行った。

	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
1年生	59	51	52	51	56	45	46
2年生	51	59	51	52	51	56	45
3年生	60	51	59	51	52	51	56
合計	170	161	162	154	159	152	147
部活動加入率	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%
部員数	136	129	130	123	127	122	118
部活動数	9	9	9	9	9	9	9
1部活あたり	15	14	14	14	14	14	13
(中体連終了後)	10	10	9	9	10	9	8

鷹栖中学校生徒数の推移

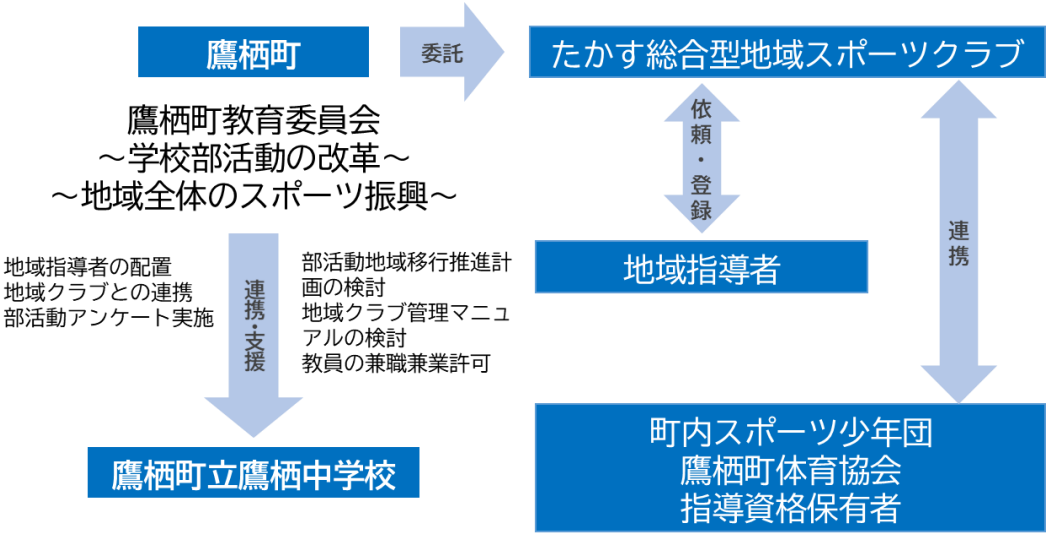


令和５年度鷹栖町小学生スポーツ・文化芸術活動に関するアンケート調査

2．実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● **教育委員会**

（教育課体育振興係）

部活動地域移行推進委託事業に関する業務

部活動地域移行検討委員会の開催

部活動地域移行アンケート調査の実施

たかす総合型地域スポーツクラブ、鷹栖中学校との調整・連携

（教育課総務係）

部活動指導員の配置

教員の兼職兼業許可

年間の事業スケジュール

令和５年５月	部活動地域移行検討委員の公募、選出
令和５年７月21日	たかす総合型地域スポーツクラブと委託契約
令和５年７月23日	第１回部活動地域移行検討委員会の開催（地域スポーツクラブ活動アドバイザー派遣事業の活用）
令和５年８月	部活動地域移行アンケート調査の実施（小学校保護者、鷹栖中学校１～３年生、鷹栖高校１～３年生）
令和５年９月19日	鷹栖中学校職員向け説明会の開催
令和５年９月26日	第２回部活動地域移行検討委員会の開催（アンケート結果の報告、実証事業内容の検討）
令和５年10月21日	地域クラブ活動実証事業の開始
令和６年１月24日	第２回鷹栖中学校職員向け説明会の開催
令和６年２月13日	鷹栖中学校１～２年生保護者説明会の開催
令和６年２月20日	第３回部活動地域移行検討委員会の開催
令和６年２月21日	部活動地域移行に関する町民説明会

2．実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

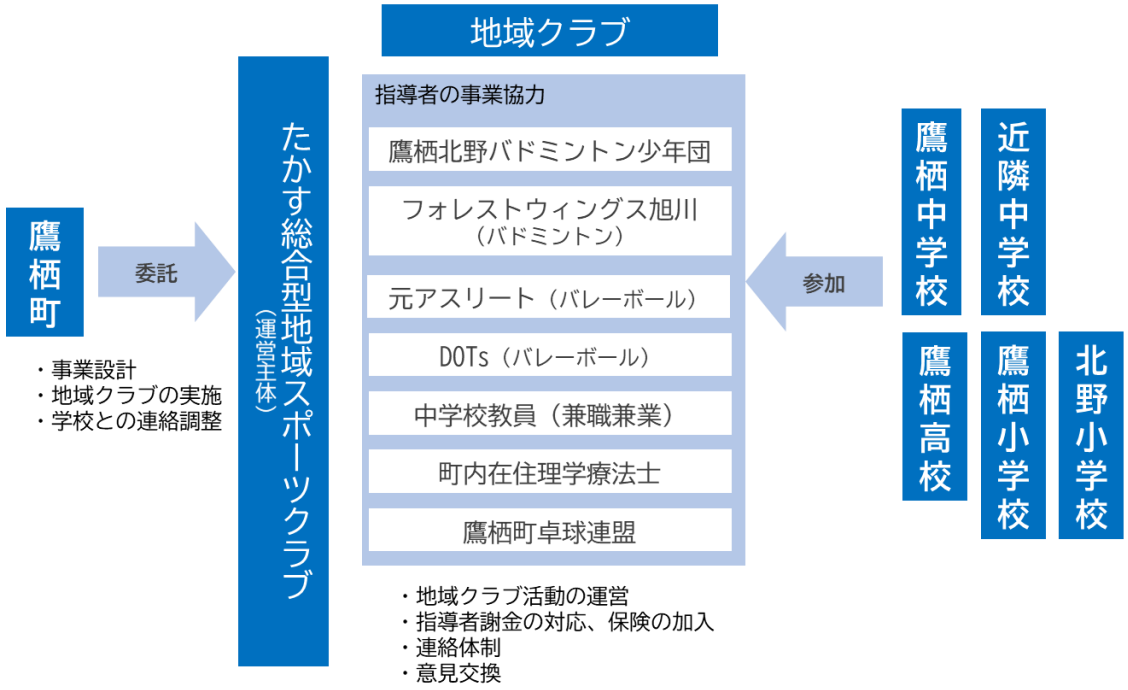
拠点校数	1校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	バドミントン、バレーボール、剣道、ゆるスポーツ、カラダつくりプログラム
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	3部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	鷹栖町立鷹栖中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	3部活
地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン、バレーボール、剣道
運営主体名	たかす総合型地域スポーツクラブ
運営類型	地域スポーツ団体等運営型 （総合型地域スポーツクラブ運営型）
1か月あたりの平均的な活動回数	バドミントン：月1回程度 バレーボール：月2回程度 剣道：月2回程度
指導者の主な属性	スポーツ少年団指導者、元アスリート、プロチーム、中学校教員
活動場所	鷹栖中学校、鷹栖町総合体育館、鷹栖町B&G海洋センター
主な移動手段	自転車、保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	バドミントン：0円 バレーボール：0円 剣道：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図



2．実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：ア．関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項	たかす総合型地域スポーツクラブが運営主体となり、指導者の確保、会場の調整、参加者の集約、当日の運営等について実証事業を行った。
取組の成果	たかす総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャーをコーディネーターとし、鷹栖中学校部活動推進委員会や顧問、指導者との連絡調整を図った。 地域クラブ活動の参加者との連絡方法が学校経由のみになっていたことから、急な日程変更などに対応ができないことがあった。総合型地域スポーツクラブが持つSNSやアプリ等を活用し、生徒、保護者、指導者、顧問との連絡手段を確立する必要がある。 地域クラブ活動に参加できる日が部活動休養日に限定されることや生徒の運動量の総量管理の必要性という課題が出てきており、学校との連携体制の構築が必要である。
特に工夫した事項	学校との連絡調整や生徒への活動周知は、中学校で窓口となる教員（部活動推進委員会担当）を選定した。中学校の協力を得ることで、教員から生徒へ地域クラブ活動への参加に対する声掛けや、各部活動顧問とのコミュニケーションをスムーズに進めることができた。 教員への説明会を２回、保護者向け説明会を１回開催したほか、学校連絡網にて保護者へ地域クラブ活動の開催案内や進捗状況の報告を実施した。
今後の課題と対応方針	人員体制として１名の職員を他事業との兼務で配置したものの、学校との調整や地域クラブの運営に想定よりも多くの業務量が発生した。 今後、地域に移行する種目が増えるなかでは、専任の職員を配置することが望ましい。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項	地域移行種目として、バドミントン、バレーボール、剣道、ゆるスポーツクラブ、カラダつくりプログラムの５種目を実施した。地域指導者や教員の兼職兼業、町と連携協定を結ぶスポーツチームに指導を依頼し、休日の部活動について、地域に移行する取組を検討、試行した。
取組の成果	バレーボールは、たかす総合型地域スポーツクラブの指導者兼鷹栖町地域おこし協力隊として活動している元プロアスリートを活用した。また、町と連携協定を結ぶプロビーチバレーボールチームDOTsにも協力をいただき、２名体制で指導を行った。 バドミントンは、新たに一般社団法人フォレストウィングス旭川と小中学生のバドミントンの指導協力などに関する連携協定を締結した。 剣道は、鷹栖中学校剣道部顧問をたかす総合型地域スポーツクラブに指導者登録し、兼職兼業の実証を行った。 ゆるスポーツクラブ及びカラダつくりプログラムでは、鷹栖町体育協会に所属する卓球連盟の方々や、町内在住の理学療法士に依頼し、指導者を確保することができた。
特に工夫した事項	町と連携協定を締結するスポーツチームと部活動地域移行に関する連携体制を作ることができた。連携体制構築にあたっては、町内体育館をスポーツチームの練習場所として貸出すことで、WinWinの関係となるよう調整を図った。フォレストウィングス旭川の母体である株式会社生活プロデュースでは、会社に所属する選手が指導にあたる際、業務として選手を派遣いただいた。 地域人材の発掘については、キーパーソンとなる方に声かけし団体で共有することで、ゆるスポーツクラブでは卓球連盟から５名、カラダつくりプログラムでは理学療法士の協会から３名を指導者として派遣いただいた。
今後の課題と対応方針	指導者がやりがいを感じ、継続して協力をしてくれる体制の構築や指導者側の研修が課題となる。 また、指導者謝金の財源確保も課題であり、すべて受益者負担とすると参加費が高額となる。参加人数を増やすには広域連携が必須となり、近隣自治体との連携も模索をしていく。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項	地域クラブ活動（バドミントン、バレーボール、剣道）の３種目において、総合型地域スポーツクラブが実施主体となることから、他の世代と一緒に参画する活動や、小学校から継続し、中学校を卒業した後も、地域でスポーツに親しめる環境の構築に向けた取り組みを実施した。アンケート調査からニーズが高かったスポーツを楽しむ活動として、「ゆるスポーツクラブ」を１回開催した。町内在住の理学療法士やプロアスリートの協力のもと、「カラダつくりプログラム」を３回開催した。
取組の成果	バレーボールは、小学６年生男女７名が参加し、中学生と一緒に活動した。合同チームを組む近隣市町村の中学生や他部活動に所属する男子生徒も参加し、町内に新たなバレーボールの環境となった。 バドミントンは実業団チームによる練習会を開催し、中学生のほか、普段専門の指導者がいない鷹栖高校バドミントン部の生徒２名も参加した。 剣道は小学生と中学生が一緒に稽古を実施し、小学生の体験者１名の少年団加入に繋がった。 「ゆるスポーツクラブ」には15名が参加した。うち、５名は部活動を引退した３年生であり、部活引退後のスポーツ活動の場としても有効であった。 「カラダつくりプログラム」には野球部、剣道部、バレー部、男女バスケ部が参加し、理学療法士やプロアスリートから正しいストレッチや筋力トレーニングに関する座学と実践を行った。
特に工夫した事項	小学生や高校生など多世代が参加することで、部員数の少ない種目における課題解決や種目に興味を持ってもらうことを目的として実施した。 ゆるスポーツクラブでは、学校部活動にない種目である「卓球」を体験できる機会を作った。当日は鷹栖町卓球連盟の方々に指導者としてご協力いただき、中学生と地域住民がスポーツを通じて交流する機会となった。卓球とバスケットボールの複数種目を体験できるように場を設定し、様々な子どもたちのニーズを拾える環境とした。当日は、普段の部活動とは異なる種目を体験することで、子どもたちにマルチスポーツの考えを知ってもらうことにも繋がり、「色んなスポーツができて楽しかった。また参加したい」という子が多かった。
今後の課題と対応方針	中学生と小学生が一緒に活動するためには、指導者１名体制では充分な指導が出来なかったため後半から２名体制とした。指導者数の確保については、少年団や地域人材のほか、町内企業との連携も図っていきたい。 より多くの生徒が参加できるような仕掛け（平日開催、部活動との連携）が今後の課題であり、中学校側と協議を進めていきたい。

2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

アンケート結果報告（小学生・保護者）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	全体数	回収率
回答者	18	19	20	21	17	20	115	301	38.2%
鷹栖小	11	5	7	9	6	7	45	117	38.4%
北野小	7	14	13	12	11	13	70	184	38.0%

【現在の活動】
- 運動系74名　文化系49名　活動していない28名　その他（海洋クラブほか）16名
- 少年団などの習い事に参加をしない理由としては、子どもがやりたがらないという回答が4割。
- 活動している方の移動方法の8割が保護者による送迎であり、既存の活動での課題としては、「送迎」と回答する保護者が4割。送迎サービスの利用希望については、利用したい18名、機会があれば利用したい64名、利用しない33名という結果。活動種目や鷹栖小と北野小に大きな差異は見られない。

【部活動】
- 希望する部活動は、「やりたい種目がない」と回答した方が35名で最も多い。
- 部活動に求めるものは「協調性・チームワークの育成」と「友人と楽しく活動」の回答が8割を占め、人間性の成長を求める傾向が強い。

【地域クラブ】
- 多種目を経験できる活動に参加をしたいかという問いには、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した方が6割。やりたい種目がないと回答した方は、多種目のスポーツが経験できるクラブ活動に好意的（25/35名）。

アンケート結果報告（中学生）

	部活動	民間クラブ	活動していない
回答者131名	105	9	17
1年生	35	4	5
	80%	9%	11%
2年生	35	2	2
	90%	5%	5%
3年生	35	3	10
	73%	6%	21%

【部活動】
- 現状の部活動に不満はなく、楽しく活動が出来ている。
- 「活動時間・日数の増加」、「試合や練習試合の増加」の要望が多い
  ⇒部活動ガイドラインで決まっているため地域移行では解決できない課題
- 部活動ごとでの特徴的な傾向はなく、どの部活動にも種目を楽しみたい子と専門的に教わりたい子が同程度存在する。

【地域クラブ】
- 望ましい土日の過ごし方については、「部活動をやりたい」が46%、「自分の時間」や「他の習い事」を合わせると41%。
- 地域クラブでの活動となった場合、競技志向よりも今の種目を楽しみたい、種目にこだわらずスポーツを楽しみたいというニーズが多い。多種目スポーツクラブのような活動はニーズがある。部活動と並行して参加が出来るような環境が望ましい。
- 興味のある種目の上位は、バドミントン24名、バスケットボール22名、ダンス・弓道12名、野球11名、卓球10名。

【第２回検討委員会資料】
小学生保護者アンケート結果の概要

【第２回検討委員資料】
中学生アンケート結果の概要

2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）



【バレーボールクラブチラシ】



【バドミントンクラブチラシ】

2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【ゆるスポーツクラブ】



【バドミントンクラブ】



【バレーボールクラブ】

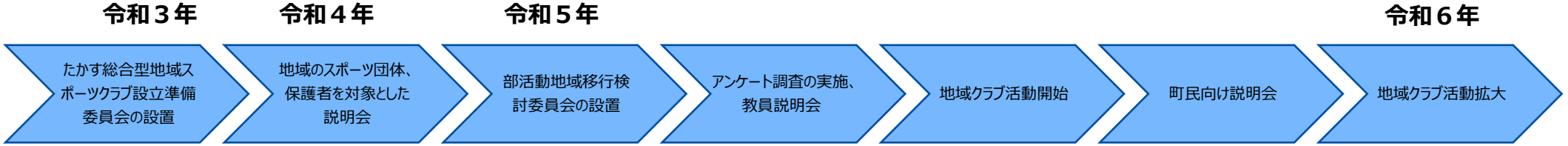


【からだつくりプログラム】

2．実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●鷹栖町教育委員会、体育協会、スポーツ少年団、鷹栖中学校、スポーツ推進委員、町民
●鷹栖町のスポーツ環境の中心となり、子どもたちの運動機会や多世代の健康づくりを目的とした総合型地域スポーツクラブの設立について、準備委員会を組織し、検討を開始した。
●検討委員会メンバーに鷹栖中学校校長が入り、学校部活動の現状と課題や部活動地域移行に関する課題について、情報共有いただき、設立準備段階から部活動地域移行の運営主体となることを見越した体制を構築していくことができた。
●令和４年度に、㈱スポーツデータバンク石塚氏を講師に、地域の関係者を対象とした部活動地域移行に関する説明会を開催した。

●鷹栖中学校、鷹栖高校、小中学校保護者、スポーツ少年団、体育協会、部活動指導員、総合型地域スポーツクラブ
●令和５年７月に検討委員会を設置。７月、９月、２月に検討委員会を開催した。第１回検討委員会では、国のアドバイザー派遣事業を活用し、生駒市西課長様から国から示された概要や生駒市の事例を講演いただき、移行にあたっての運営体制や予算について学んだ。
●アンケート調査や中学校との協議を進めていくにつれ、中学生のスポーツ活動の中心は部活動であり、生徒・教員も部活動を望んでいることが分かり、部活動を補完する目的での地域クラブ活動を展開し、町としても部活動と地域クラブ活動の二つの活動を基本方針とし、指導者の確保など受益者負担による運営体制が確保できた種目から随時、地域に移行することとした。
●実施した地域クラブ活動については、種目別のクラブ活動は、中学校顧問と連携を図り実施ができた。ゆるスポーツクラブやカラダつくりプログラムは、周知不足や部活動との兼ね合いから、中学生からの積極的な参加は多くなかったため、今後の課題とする。
●２月に開催した町民向け説明会においても、国のアドバイザー派遣事業を活用し、NPO法人希楽々スポーツクラブ渡邉様から部活動と地域の融合について講演をいただき、参加者への地域移行の必要性や、今後の子どもたちのスポーツ環境の変化について理解と協力をいただいた。
●検討委員会メンバーであるバドミントン指導者から地域移行の受入の相談があり、９月から中学校、少年団、指導者、総合型地域スポーツクラブにて活動内容の組立を行い、令和６年度よりモデルケースとして土日の地域移行を実施する。

●鷹栖中学校、鷹栖高校、小中学校保護者、スポーツ少年団、体育協会、部活動指導員、総合型地域スポーツクラブ
●バドミントン部の土日の地域移行とゆるスポーツクラブの定例教室化を総合型地域スポーツクラブが運営主体となって実施する。

3．今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

鷹栖町　部活動地域移行スケジュール（案）

	2023年度（R5）	2024年度（R6）	2025年度（R7）	2026年度（R8）
鷹栖町	○方針の策定 ○実態調査 ○教員説明会 ○町民説明会	○部活動地域移行推進計画の策定 ○部活動地域移行の周知、広報 ○国の委託事業の活用、情報収集		○地域クラブ活動の支援
地域クラブ活動	**休日部活動の地域移行　推進期間** **土日の部活動の段階的な移行**			
	地域クラブの実証 ○バドミントン ○バレーボール ○剣道 ○ゆるスポーツクラブ ○カラダつくりプログラム	**バドミントン**（土日の部活動の移行実証）		**バドミントン地域移行**（予定）
		バレーボール（土日の部活動の移行実証、多世代による活動）		**体制が整った種目から地域移行**
		その他の競技種目の移行検討 剣道、バスケットボール、野球、ソフトテニス、クロカン、吹奏楽		
		中学生スポーツ活動の受皿、部活動の支援 ゆるスポーツクラブ、カラダつくりプログラム		
学校部活動	**学校部活動の継続** ※部活動は現状通り継続 ※土日の大会引率や練習試合については、学校部活動にて継続 ※合同部活動による他町村との連携			**学校部活動の継続** ※移行できていない種目
	部活動指導員の配置（国の補助金活用～７年度まで）			部活動指導員配置は未確定